石櫻新聞

平成９年４月８日発行
第 96 号
発行　岩手高等学校
盛岡市長田町
印刷　山口北州印刷㈱

国立大合格者14名

北大他４つの国立大学へ

現役合格者百名突破

今年度の大学入試では、センター試験で一部変更があったので、旧卒には少し不利に動いたなか、現役（新卒）一二四名を含む、合計二〇七名が合格した。

▶平成八年度大学合格者一覧（3月25日現在）

	大学名	新卒	旧卒	合計
国立大学	北海道		1	1
	岩手	9	1	10
	福島		1	1
	茨城		2	2
	合計	9	5	14
私立大学	盛岡	2	1	3
	東北学院	11	2	13
	成城		2	2
	成蹊		1	1
	東京理科		2	2
	日本	3	3	6
	明治		1	1
	同志社	2	1	3
	その他私大・短大	97	65	162
	合計	115	78	193
	総合計	124	83	207

今年度の大学合格者数は、のべで新卒一二四名、旧卒八三名の計二〇七名であった。このうち国立大は新卒が岩手大学に九名が合格、旧卒は北海道大、岩手大、福島大に各一名、茨城大学に二名が合格した。

また私立大学には、盛岡大学に三名（以下、新卒・旧卒合計）、東北学院大学に一三名、成城大学に二名、成蹊大学に一名、東京理科大学に二名、日本大学に六名、明治大学に一名、同志社大学に三名など、有名な大学への合格者だけでも、こんなに多くがでた。

その中から、北海道大学に合格した中村先輩から、これから受験する人達へのメッセージをいただけたので、それぞれが、自分なりにうけとめてもらい、今後にいかしてもらえればと思う。

現役が健闘

今年度の大学入試は、新課程と旧課程との入れ替えの年にあたり、どちらかといえば現役に有利な入試であったが、そのこと以上に現役生はがんばり、ついに合格者が前年度よりも大幅に増えて三ケタになった。旧卒からの合格者が著しく減少したため、合計では前年度より少ない数字になってしまい残念だが、結果としては悪くなかったと思う。

今度は自分たちの番だと思うと気持ちは複雑になってくるが、頑張っていきたいと思う。とにかく受験生だったみなさん、おつかれさまでした。

北大に合格した中村先輩の言葉

受験は大変厳しいものです。あれこれ良い方法はないかと考えるより、すこしでも多くの時間を勉強にあてた方が、最終的に成功できると思います。

提言

生徒会長　上杉憲司

岩手高等学校入学生の皆さんを心から歓迎し、おめでとうを申し上げます。

皆さんは高校生活に何を期待しているでしょうか。

大学へ進学するにしても、就職するにしても、高校生活は、自分が目指すゴールへのスタート地点にあたります。

中学校の成績が良かった者、悪かった者。受験に失敗した者、あるいは合格した者。皆さんはどれに該当するか分かりませんが、岩高入学というスタート地点に立っている以上、条件は全く同じです。差はありません。これからの新たな自分自身のがんばりによって、他人との差が生じてきます。

「強敵は自分自身です」。人間は誰でも弱い心を持っています。

誘惑に負けたり、怠け心が生まれたりしがちですが、もし道から外れそうになったら、自分の心の敵とにらみあい、戦って勝ってください。それに勝つことによって、我が岩高の精神である「石桜精神」の意味を理解することができると思います。

まず、自分自身へにチャレンジです。

岩高は、数ある高校の中でも、伝統のある高校の一校です。

私もまだ岩高の伝統の全てを理解してはいませんが、学校にいるときより地域の人と触れ合ったときに、伝統の深さを感じます。

素晴らしい先輩方が大勢いらっしゃいます。議員の方や老後を楽しんでいる方などから、岩高の「ノーサイド」で終われるよう、共に頑張っていきましょう。

ぜひ皆さんも卒業までに、それを感じてほしいと思います。

ラグビーの試合終了のことを「ノーサイド」といいます。これは、攻防が終わった瞬間、敵味方の区別が無くなるということを意味します。

やるときは全力を尽くし、終わればお互いの健闘を称え合う。

とても素敵なことだと思います。

皆さんも卒業のとき、「ノーサイド」で終われるよう、共に頑張っていきましょう。

7割が大学進学希望

新入生召集日255名が集う

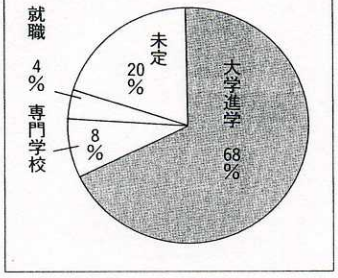
四月八日、岩手高等学校体育館にて、平成九年度入学式が行われる。それに先だって、去る三月二五日に新入生に対しての説明会が行われた。この日は、簡単な説明会の後、各教室でクラス編成の参考となる学力テストが行われた。今年度の新入生の構成は、特進コース二二名、一般コース二三〇名の計二五五名、そのうち付属の岩手中学出身者は一四名である。新入生の今後の活躍を大いに期待したい。

さて、我が出版委員会は同日、新入生を対象にアンケートをお願いした（関連記事二面へ）。その結果、七割弱が高校卒業後、大学への進学を希望していた。（グラフ参照）その夢を実現できるよう、個々努力を惜しまず頑張ってほしい。

次に四月の主な学校行事をみていくと、入学式から対面式、生徒会組織選出からクラブ勧誘、そして応援歌練習と慌ただしく続く。ライフスタイルが変わって大変かもしれないが、なるべく早く高校生活に慣れ、充実した毎日を送れることを期待する。

召集日に集まった新入生

高校卒業後の進路希望



春から岩高生の仲間入り

―岩手中学卒業式挙行

岩手中学校の卒業式が三月二十六日、本校体育館において挙行された。卒業生は十四名で、全員が岩手高校に入学する。

まだ肌寒さの残る三月二十六日、快晴の春空のもとで岩手中学校の卒業式が、ストーブが懸命に働く本校体育館で挙行された。

式次第

1・開式の辞
2・君が代一唱
3・卒業証書授与
4・賞状授与
5・学校長訓辞
6・来賓祝辞
7・卒業生総代答辞
8・卒業生保護者代表謝辞
9・閉式の辞

総代は工藤君

今回の卒業生は十四名で、その中から、優等生として二名が学校長より表彰された。優等生は、年間を通して優秀な成績を修めた者である。

◆優等生　二名
工藤定史
三浦康輔

また優等生に選ばれた工藤定史君は卒業生の総代として、答辞を読み上げた。

卒業生は四月から、こんどは岩手高校生としての生活が始まるので、また新たな気持ちで頑張ってもらいたい。

答辞を読みあげる工藤君

優等生表彰される

■優等生十五名

四月五日に平成八年度の優等生十五名が表彰をうけた。この十五名は、校長先生より優等賞状が手渡され奨学金が授与された。

優等生は、年間を通して優秀な成績を修めた者である。

優等生

高校二年　五名
大坪　克彰　（F組）
佐々木　輝　（F組）
菊池満寿雄　（F組）
藤尾　恵介　（F組）
遠藤　貴寿　（F組）

高校一年　十名
（文理コース）
石田　寛　（C組）
中村　聡志　（D組）
（特進・選抜コース）
高橋　徹　（F組）
伊藤　純　（E組）
高橋　景太　（E組）
小野寺恭志　（F組）
木内　浩文　（E組）
村上　勝俊　（F組）
藤原　秀徳　（E組）
吉田　賢史　（E組）

年度始め行事予定

4月
7日　中学入学式
8日　高校入学式
9日　対面式
新入生
ガイダンス
各部紹介
委員選出
二・三年
10日　委員選出
入部勧誘
委員会集会
15日　入部調査
21日　応援歌練習（24日まで）
25日　石桜会役員選挙

■視点

石割桜

裁判所前の石割桜から孤が取り外されるニュースを見た。春である。埃っぽい風。穏やかな陽射し。引っ越し便のトラック。中には花粉症の心配をしている向きもあろうか。▼心配事といえばこの四月から消費税が５％になった。何年か前、消費税導入の時は国民が揃って猛反対したのだが、今回の増税に対する反応はどこか冷めているようだ。慣れとは恐ろしい。それが当たり前になってしまうと問題意識が薄れてくる。▼増税を批判するわけではない。必要なお金は集めなければならないのだ。しかし、その使われ方にも関心を持ちたい。行政の無駄遣いを見過ごしていないだろうか。▼あれやこれや、心配事の種は尽きないものだが、新入生にとっての心配事はやはり、これからの学校生活についてだろう。在校生にとっても新年度のスタートは心機一転、気持ちの切り替えができるときである。新しい事に挑戦するのもよい。何事も前向きに取り組み、石割桜のように美しい花を咲かせたいものだ。

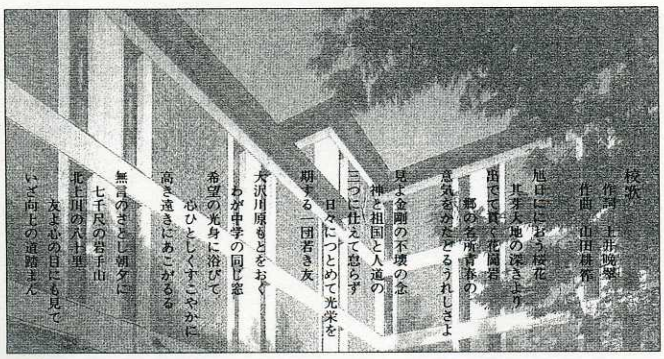
歓迎 新入生諸君

長かった冬もようやく終わり、いよいよ春の到来だ。名勝石割桜ももうじき花を咲かせるだろう。そして春は新たな出会いの季節である。特に新入生は高校入学あるいは中学入学という出会いの時を迎えた。そのさまざまな出会いを大切にして、岩手中・高等学校で有意義な学校生活を送って欲しい。

新入生の諸君、岩手高校入学おめでとう。これから三年間岩手高校に学ぶことになるが、そこで新しい友達や良い先生に出会うことになるだろう。新しい岩手高校の歴史を作るのは新入生の君たち以外他にはいないはずだ。

本校の生い立ち

本校創立者三田義正は、社会に役立つ誠実な人材の育成が重要だとして、大正十五年に岩手中・高等学校を設立した。そのとき唱えられた本校の校訓が「石桜精神」なのである。



各部の活躍

さて、この何年か岩手高校の各部の活躍が目立っている。物理部の海外遠征、ソフトテニス部・テニス部のインターハイ出場など輝かしい実績を残している。その他の部も一生懸命に活動している。

新入生の学校行事

授業は一時限五十分で一日六・七時間。それが終わるとクラブ活動になる。

一年生が岩手高校に入学すると、四月の最初には入学式、対面式、クラブ説明会とあるが、最初の難関は応援歌練習である。新入生にとってはとてもつらい応援歌練習だが、それによって本校への愛校心と、精神力を育むのであるから、心して臨んでほしいと思う。

岩高生として

岩手高校は昨年創立70周年を迎えた伝統校だ。その名に恥じるような生徒にはなりたくないものだ。本校に入学する新入生の中には、公立高校入試に失敗し、悔やんでいる者も少なくないと思うが、岩手高校に入学したからには、気持ちを切り替えて、やる気と強い精神力を持ち、規律正しい高校生活ができるように心がけてほしい。

また、本校に入学するのが楽しみで、今から胸をわくわくさせている人は、その気持ちを勉強はもちろんだが、部活や委員会でも活かしてほしいものである。

皆さんの境遇は人それぞれであろうと思うが、三年後高校卒業を迎えるときに、「岩手高校で学んで良かった」と思えるような、充実した高校生活が送れるように期待する。

新入生にアンケート

高校生になったら

我が出版委員会は3月25日の新入生召集日にアンケートをお願いした。このアンケートのねらいは、新入生の意識を調査するためにあった。その結果が出たので報告したい。

Q1 高校卒業後の進路は？

大学進学	68%
専門学校進学	8%
就職	4%
その他	20%

新入生の7割弱が大学進学を希望していた。この気持ちを忘れず、目標を達成してほしい。ただここで気になるのが、未定という人の存在だ。やっと高校に入学したばかりでそんなことを考えろというのは酷かもしれないが、早めに考えておくことをすすめる。

Q2 高校生活でもっと力を入れたいことは？（資料1参照）

勉強に力を入れたい人がいちばん多い。大学進学志望の高さと関係がありそうだ。部活に燃える人も多い。友人を増やしたいという人は少ないが、岩高は男の友情が育つ所だ。ぜひ良い友人を見つけてほしい。

Q3 クラブ活動は？

運動部に入る45%
運動部に入りたい21%
文化部に入る11%
文化部に入りたい10%
未定25%

運動部に入る予定の人が多そうだ。青春の汗はスポーツで流そうという意識の現れか。ただ文化部も中学とは違い、個性的な活動ができる。いずれにしろ、3年間やり通すことを前提に選んでほしい。

Q4 今後の岩手高校はどうあるべきか？

施設・設備の充実	33%
進路指導の充実	34%
クラブ・生徒会活動・学校行事の充実	28%
共学にする	58%
その他	4%

岩高生なら誰もが思うことが「共学にして」ということ。しかしこれはないものねだりである。男子校だからこそできることがあるはずだ。その他各方面の充実が望まれているが、一つでも実現できるよう、頑張っていきたいものだ。

眠れる獅子よ 走り出せ！

INTERVIEW

■池口校長先生に聞く■

――（一同）それではよろしくお願いします。

校長先生（以下校長）　まあ座って。（座席を決め位置に着く）

――早速ですがまず九年度で就任三年目を迎えますが、何か感想をお願いします。

校長　そうですね、二年前に就任した当時の岩高はいわば「眠れる獅子」といった感じで、これほど伝統があって有名なのに今一つ活気がない。何とか活性化してほしいと先生たちにも働きかけをしました。その狙いは生徒の自主活動を活発にしてほしいということです。自分たちで意見を交わす場所を持ってほしかった。例えば去年の石桜祭でタレントを呼びたいという生徒の声が挙がりまして、残念な結果に終わってしまったんだけど、望んでいたのはこういうことなんだよ。こういう自主性を持ってほしかった。前生徒会長が中心となって頑張ってたようだけど、全生徒の協力が得られなくて苦労していたようだね。でもこれからはそういう方向へ持っていきたい。

感想はそんなところかな。

――次に九年度の具体的な方針についてお願いします。

校長　九年度は学校の中を固めたい。

――それはどういうことですか。

校長　私が就任してからの二年間は各中学校などへの外への働きかけが多かったので、まずは学校内を固め揺るがないようにしていきたい。例えば以前から話が出ていた修学旅行の問題も、検討を始めています。ただブランクが空いているので、いきなりできるものでもありません。旅行会社によると準備に一年半もかかるそうなので、早くても来年入学してくる一年生が行くことができればー・と思います。

あと、テニス、ソフトテニス以外の優勝旗もねらいたい。岩高はスポーツ推薦を行っていないので、苦戦を強いられることが多いが、高校入学から叩き上げてここまで通用しているのだから、努力次第で優勝も狙えると思います。それから、特進もそろうので、校外模試で上位にくい込める生徒も出てきてほしいですね。

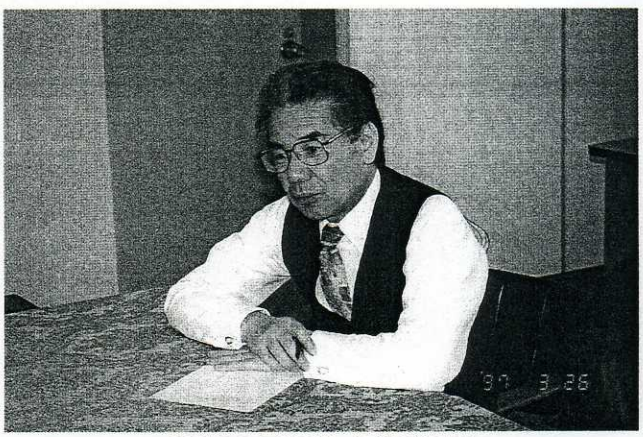
――今の生徒に望むことはありますか。

校長　自信とプライドを持てということにつきますね、まとめて言えば。人前で堂々とものを言えるようになってほしい。

――新入生に望むことを教えてください。

校長　いったん岩高に入ったのだから、一刻も早く岩手高校生になりきるべきだね。先輩の中から本来の岩高生を見つけだして、目標にしてほしい。

――お忙しい中どうもありがとうございました。



岩手高校のこれからを熱っぽく語る池口校長

石桜精神とは？

（せき おう せい しん）

新入生諸君、入学おめでとう。これからの三年間各自初心を忘れずにがんばってほしい。それでは、皆さんの母校となる岩手高校の校風である、「石桜精神」について説明していこう。

石桜精神とは、岩手高校の長い伝統の中で先輩から後輩へ承け継がれてきた不変のものである。多少の解釈の違いはあるかと思うが一言でいうと、「どんな困難な状況の中においても前進し、最後には綺麗な花を咲かせる」という意味でなからうか。言葉にすれば一見簡単なようにも見えるが、実際これほど難しいことはない。しかし、私たちはこれを理解し、実践していかねばならない。これは新入生だけでなく在校生にも言えることだろう。次に、この石桜精神の由来について紹介していこう。

石桜精神の「石桜」とは、盛岡地方裁判所の前にある名勝石割桜から来ている。巨岩を貫いて根を張り花を咲かせるその姿は、盛岡の代表的な観光地の一つである。その石割桜が本校の精神の根元なのだ。本来、ほとんどの植物は土に根を張る。これは植物の本望だ。石割桜も例外ではないがなぜ岩を貫いて大地に根を降ろしているのだろうか。学術的に言えば、落雷によって岩に亀裂が入り種が落ち込んだ、などという説があるようだ。

しかし、どのような理由があるにしろ、大切なのは悪条件に耐え、そして春には美しい花を咲かせるその姿勢である。これが、岩手高校創立以来語り継がれてきた、「石桜精神」そのものである。

最後になるが、これから先皆さんも困難にぶつかることがあるかと思う。八方ふさがりの状態に陥ることもあるかもしれない。が、そんなときにはぜひ「石桜精神」を思い出し、乗り越えていってほしい。それが真の岩高生の姿だと思う。

石割桜の花になれ

岩高の「常識・非常識」

出版委員会が独断と偏見で選んだ

新入生の皆さん、入学おめでとう。これからの新しい生活に期待と不安と、そして戸惑いを感じていることだろう。そんな悩める君たちに、我が出版委員会が、岩高生としての最低限の基本知識を教えてあげよう。

創立記念日は二月十一日

本校は大正十五年創立の伝統ある学校である。初代理事長三田義正先生が軽佻浮薄だった当時の世相を憂い、有為の人材育成をめざして本校の創立を決意したのがこの日である。創立記念日は休校になるのが普通だけど本校の場合なんだか損してるような…。

茶髪・ピアス禁止

本校の校則では茶髪・ピアスは共に禁止されている。もしこれに反すると強制的指導を受けることがあるので覚悟してください。

バスで遅れると遅刻

朝は交通渋滞がつきものだ。そのせいでHRに間に合わない事もある。担任はバスが遅れたのか、バスに遅れたのか聞くが、いずれにしても遅刻だ。

体育館では専用靴

体育館の床面は非常にデリケートなので体育館シューズに履き替えること。これを守らないとヒドイ目にあうらしい。

先輩に会ったら挨拶

上級生には必ず挨拶すべし。「オッス」

抜き打ち持ち検あり

学校は勉強をする場である。しかし、必要ないモノまで持ってくる奴もいるらしい。なぜ抜き打ちで行うのか？考えなくてもわかるよね？

放送は呼び出しだけ

中学校では昼の放送などいろいろあったと思うが、岩高での校内放送は呼び出しくらいなもの。しかし、これがまた多いのだ。

金を喰う自販機

生徒のあつい希望で設置された自販機。でも皮肉なことに時々なけなしの金を喰ってしまうことがあるらしい。被害者は担当の先生に申し出てください。

ロールペーパーに注意

切羽詰まっているときはそんなこと考えている暇はないが、いざ事をなし終えてみると、うろたえることもあるようだ。ないときは事務室に行けばもらえます。

職員室には床屋がある

職員室では生徒が希望すれば髪を切ってくれるらしい。しかし注文できる髪型は丸刈りのみ。

空き缶捨て場に蜂の巣

夏場になると、空き缶に残ったジュースの糖分を求めて、蜂が集まってくる。刺されないように注意。

連日満員御礼保健室

保健室は毎日、具合の悪そうな（？）生徒でにぎわっている。いくら優しい先生だからといってもあまり迷惑かけないように。とはいえ、定期考査になると誰も来ない。

出版委員会は素晴らしい

今回、このような石桜新聞新入生歓迎特集を組んだのは何を隠そう出版委員会である。我々はジャーナリストとして社会正義のために活動している。ただ今スタッフ募集中。やる気のある君！ぜひ出版委員会でその才能を発揮してみませんか。イラスト・写真が得意な人も歓迎します。

新入生諸君が「お世話になる先生です」

～高一学年団と中学一年担任の紹介～

A組
伊藤　秀一先生
担当教科　英語
部顧問　バレーボール

B組
八重樫律幸先生
担当教科　美術
部顧問　絵画

C組
中山　泰志先生
担当教科　理科
部顧問　サッカー・生物

D組
橋　貴志先生
担当教科　体育
部顧問　バスケットボール

E組
岡本　久雄先生
担当教科　数学
部顧問　陸上

F組
和田健一郎先生
担当教科　国語
部顧問　野球

甲組（中学）
八代　敬一先生
担当教科　国語
部顧問　映画・山岳

石桜会所属　体育部・文化部

DATA BANK

石桜会には12の文化部と17の体育部がある。新入生は、どのクラブに入るか迷うところ。ここでは、その全てのクラブを紹介しよう。

データの見方
①クラブ名
②部員数（高二・高一・中学）
③活動場所
④活動時間
⑤顧問名
⑥活動方針

①陸上部
②9名（4／4／1）
③運動公園・学校
④3時半～6時
⑤岡本久雄
⑥地道な努力で、ハッスル・ハッスル・ハッスル。

①卓球部
②6名（1／5／0）
③講堂
④3時半～7時
⑤小畑勝行
⑥人数は少ないが、少数精鋭で県大会へ出場する。

①ソフトテニス部
②16名（5／5／6）
③テニスコート
④放課後
⑤東　幸男
⑥全員インターハイ出場。

①硬式野球部
②18名（6／12／0）
③滝沢グランド（冬は学校）
④4時半～8時半（冬は3時半～6時半）
⑤米田耕市（監督）・加藤孝志・和田健一郎
⑥全ては勝つために。

①柔道部
②11名（4／5／2）
③柔道場
④3時半～7時
⑤松田圭二・佐藤正俊
⑥気合いを入れて頑張る。

①剣道部
②5名（4／1／0）
③体育館
④3時～5時
⑤久保英三郎
⑥伝統ある剣道部で、己の「技と精神」を鍛える！

①バスケットボール部
②24名（6／18／0）
③体育館
④放課後より1時間30分
⑤橘　貴志
⑥いつも楽しく、元気よく。

①水泳部
②9名（6／3／0）
③プール及びプールサイド
④3時半～5時半
⑤菊池　健
⑥記録は二の次にしても、まじめに自己研鑽する者。

①ラグビー部
②23名（10／13／0）
③本校のグランド
④放課後より3時間
⑤高橋一義・佐々木秀美
⑥Aブロック定着を目標。

①バレーボール部
②14名（8／6／0）
③体育館の中央コート
④放課後より7時半まで（暗くなるまで）
⑤伊藤秀一・高橋仙一
⑥何が何でも予選通過！バレーが好きな奴来い！。

①ハンドボール部
②15名（7／8／0）
③ハンドボールコート
④4時～6時
⑤吉田文明・小泉美智代
⑥明るく、楽しく、スポーツするぞ！。

①体操部
②11名（9／2／0）
③体育館（グランド側）
④放課後
⑤五日市　悌・菊池軍次
⑥「さわやか体操部」を合い言葉に明るく楽しく。

①山岳部
②8名（3／5／0）
③高松の池・高松神社
④日が沈むまで…。
⑤竹本英三・新田亮一
⑥山を楽しんで登る。

①アイスホッケー部
②15名（9／5／1）
③アイスアリーナ
④場合によります。

①スキー部
②7名（6／1／0）
③雫石スキー場
④4時頃～8時頃まで。
⑤新田亮一
⑥来たれ新一年生！。競技スキーがまっている。

①テニス部
②22名（7／8／7）
③未定
④放課後より3時間程度
⑤本多好郎
⑥県はもちろん、全国でも勝てるように頑張っています。

①サッカークラブ
②14名（7／7／0）
③岩手医大グランド
④4時～6時
⑤中山泰志
⑥茶髪、ヤンキーお断り。正統派学生の形成。

①絵画部
②10名（7／1／2）
③美術室
④オールタイム
⑤八重樫　律幸
⑥美術を愛する人が好きなだけ絵を描く。

①写真部
②11名（3／8／0）
③暗室（部外秘）
④随時
⑤外舘克裕・竹本英三
⑥プリントをしまくろう！

①物理部
②12名（5／6／1）
③実験室
④放課後から…。
⑤佐々木修一
⑥やる気のある奴求む！。

①化学部
②8名（1／3／4）
③化学実験場
④空いてる時間常時
⑤化学の原田
⑥「化学をわかりやすく」「二段ロケットの完成」

①生物部
②3名（3／0／0）
③理科実験室
④放課後
⑤中山泰志・川村康二
⑥自発的に研究をしてみたいと思う人のみ求む。

①地学部
②0名
③理科実験室
④放課後
⑤竹本英三
⑥具体的な目的を持った人のみ求む。

①吹奏楽部
②17名（10／7／0）
③音楽室、楽器庫
④3時～7時
⑤川村康二・菊池治雄
⑥東北大会に幾度となく出場中。未経験者大歓迎！

①英会話部
②8名
③不定
④不定
⑤佐々木康明
⑥英検、インターネットにチャレンジ！

①PFC（郵便友の会）
②5名（1／4／0）
③校内及び盛岡中央郵便局
④放課後、土曜、日曜
⑤藤原隆史、青木文一
⑥文通研究、福祉活動参加

①書道部
②9名（4／5／0）
③書道教室
④午後3時30分から
⑤新田亮一
⑥書道検定、コンクール出品、書道講習会など

①将棋クラブ
②15名（3／9／3）
③3甲教室
④放課後（月～金）
⑤藤原隆史
⑥新羽生善治を養成し、全国大会を目指す。

①映画部
②13名（6／7／0）
③3A教室
④毎日放課後
⑤八代敬一
⑥石桜祭を三倍楽しめる。それが映画部。

クラブ紹介 第5回 スキー部

「ご苦労様です。」の声が彼らの前を通る先生方、お客様の耳に届いて来る。彼らこそ、全校朝会で校長先生から誉められたことで名高い、スキー部である。

そんな彼らに、日頃のクラブ活動について取材をした。

日々の練習を大切にし、トレーニングに励む

本校のスキー部は、すでに紹介したように、毎日の部活動や日常の学校生活において、来客や先生方に対して挨拶をすることで、高い評価を受けている。

安比高原スキー場、スキーセンター前にて

部活動においても毎日のメニューを考えて計画的に行い、成果を上げてきている。部員数は三年生六人、二年生一人、一年生二人の計九人である。

スキー部は、スキーの大会等も含めて、スキー場での合宿やナイター練習などを中心に活発に活動している。これは十二月の八幡平合宿から五月の月山まで続くに至る。雪の降らないオフシーズンには陸上でのトレーニングを行っている。主なメニューは、6キロのマラソン、50メートルダッシュ、バランストレーニング、筋トレを重点的に行いながら、毎週水曜日には盛岡体育館でウエイトトレーニングを行っている。また、第一、第三土曜日には自転車で学校から網張スキー場まで自転車トレーニングを行っているそうだ。その他、夏休みの活動としてスパリゾート長田町（岩高プールのこと）での水泳、岩手山への登山、十一月にはイメージトレーニングを取り入れて、高総体、県選手権に向けて調整を行っている。日頃から雪上の練習に限らず、スキーをするうえで必要な体力トレーニングを大切に続けている。

顧問の新田先生

数々の大会で上位に

その成果が、平成八年度には東北大会、全日本ジュニア選手権大会などへの出場を果たしている。

スキー部を支えているのは芸術科（書道担当）の新田先生である。新田先生は部員から、常に生徒を第一に考える素晴らしい先生と恐れられている（熱血先生である。）

スキー部は元より書道部、山岳部の顧問も担当され、いつも各部員らの指導にあたっておられる多忙なアドバイザーだ。

スキー部の活動目標の東北大会出場を応援して、クラブ紹介を終える。

吹雪の中、新田先生の指導を受ける

部・員・名・簿

三年生　笹田恵介
　　佐々木一史
　　佐藤俊平
　　島津智
　　佐々木秀樹

二年生　白砂洋樹
　　山口康介
一年生　追久保匡規
　　工藤定史

HR担任決まる

平成9年度

平成九年度のホームルーム担任が、年度始めの会議で決定され、次のように発表された。高一・中一の担任については、三面に記載されている通り。今年一年間よろしくお願いします。

第三学年
A組　村井　伸吾　先生
B組　佐々木秀美　先生
C組　川村　康二　先生
D組　菊池　健　先生
E組　五日市　悌　先生
F組　遠藤　清安　先生

第二学年
A組　武田　和真　先生
B組　新田　亮一　先生
C組　東　幸男　先生
D組　佐々木康明　先生
E組　川村　國男　先生
F組　竹本　英三　先生

中学三甲　藤原　隆史　先生
二甲　小泉美智代　先生

まだ間にあう ヘールボップ彗星

皆さん！　このコーナーは今話題のヘール・ボップ彗星（以下、H・B彗星）についてちょっとだけ紹介するコーナーです。少しの興味のない人も、まずは読んでください。

まずは彗星についての基本から。彗星は、本体の大部分が水でできています。そしてその尾は常に太陽と反対の方を向いているんです。次に、H・B彗星の特徴を簡単に説明していきましょう。最初は、これまで人類が見てきた彗星の中でいちばん明るいということです。去年現れた百武彗星よりはるかに明るい彗星ですよ。そして第二に彗星本体の直径が四〇kmとこれまたかなり巨大なのです。ちなみに、ハレー彗星が二〇km、百武彗星が一・二kmとなっています。第三に彗星の尾がほかの彗星と比べて長いのです（約十万km）。これは見れば分かります。最後は地球のかなり近くを通るということです。

次は見頃と観測の仕方について。彗星は夕方、日没後から西の空に見ることができます。五月連休に入るとH・B彗星は見えなくなってしまいます。四月の上旬が最もよく見えるようです。しかし月が明るくなって行きますので、だんだん条件は悪くなります。彗星をよく見るには目を暗闇に充分慣らしておくことが大切です。街の明かりが直接目にはいると目を刺激して見えにくくなります。なるべく周辺に明かりのない場所で観測するのがよいでしょう。また、最近の空、特に街の中は車の排気ガス等で透明度が非常に悪いことも考えに入れておきましょう。肉眼でも充分見ることができますが、双眼鏡が役に立ちます。

H・B彗星が次に現れるのは約二五〇〇年後。前回地球に接近したのは何と縄文時代の頃！　縄文人も見たはずです。二五〇〇年も生き続ける自信のない皆さん。今晩にもこの天体ショーを見てみませんか。今ならまだ間に合いますよ。

たつ鳥あとを濁さず
～春休み大掃除～

春休みの始めから四月の始めにかけて、教室大掃除が、全教室一斉に行われた。今回は机の搬出から、ガム取り、古くなったワックスを剝がして、床を磨き、そして最後にワックスがけをした。

ところで、新校舎の教室は、床がコンクリートなので幾分掃除がやりやすい。ところが、旧校舎となると新校舎と違い床が木になっていて、その上過去の汚れがそのまま残っている箇所もあり、それをきれいにするのに、とても苦労した。

さて、今回の「たつ鳥あとを濁さず」作戦は、教室の机の搬出から始まった。

ガム取りは、スクレイパーで黒ずんで固まったガムを取った。はじめからこの作業にはすごく苦労した。床の削った跡が、その苦労を物語っている。あと床板の隙間の汚れを掃除機で吸い取るクラスがあった。小さな砂が取れワックスがけもきれいにいくらしい。

古くなったワックスを剝がす作業は、ワックスリムーバー、マイペット、たわし、デッキブラシ、雑巾、さらには電動ポリッシャーまで使う大作戦となった。

多くの生徒達が、電動ポリッシャーに悪戦苦闘するなか、その使い方が上手かったのは、一年F組の担任竹本英三先生であった。先生曰く、「学生時代のバイトの経験が役に立った。」とのこと。

最後は、ワックスを塗った。三度塗りや、雑巾でカラ拭きをしたりしたクラスもあったが、そこは床のつやがいいようだ。

こうして、春休み大掃除「立つ鳥あとを濁さず」作戦は無事終了したが、せっかく自分達できれいにしたのだから、ガムなど、ゴミを床に捨てたりしないでほしい。

余談ではあるが、一部のクラスではゴミ箱まで掃除したという。彼らを賞賛しようではないか。

レッツ・ボウリング！
平成八年度の謝恩会

平成八年度の謝恩会は、二月二七日、スターレーン（中野）でボーリング大会が行われた。謝恩会としては初めての試みであったが、卒業生と教職員が一緒になって最後の楽しいひとときを過ごした。卒業していった先輩方にとっては思い出深い謝恩会となったことだろう。大会は団体と個人で競われ、個人優勝の升田先輩をはじめとして上位入賞者には賞品が渡された。その中で先生方の健闘が目立ったようだ。

おもな成績は次の通り。

優勝チームのメンバー、カップを持っているのが個人優勝した升田先輩

団体の部
優勝チーム　川村　光平先輩
　　菅原　哲也先輩
　　古舘　良祐先輩
　　阿部　公先輩
　　升田　修平先輩
　　菅原　章伸先輩

個人の部
優勝　升田　修平先輩
二位　武田　真和先生
三位　千葉　崇先輩
四位　原田　信雄先生
五位　佐藤　大輔先輩
六位　小原　健先輩
七位　吉田　悟志先輩
八位　八重樫律幸先生
九位　佐々木大介先輩
十位　佐藤　正俊先生

編集後記

新入生諸君、入学おめでとう。君たちの前途がすばらしいものになることを応援します。石桜新聞第96号は新入生向けの紙面づくりとなっています。岩手中・高等学校で三年間、あるいは六年間学んでいく上で必要な最低限の情報をまとめてみました。

今後、出版委員会は、創刊一〇〇号をめざして、日夜努力していくつもりです。次号は六月に発行を予定しています。ご期待下さい。

編集委員
委員長　中村　史幸　2E
委　員　和泉　博之　2C
　　田鎖　英　2D
　　佐藤　真一　1A
　　西國　礼十　1B
　　斎藤　和彦　1B
　　柿木　和磨　1C
　　栃木　晋　1C
　　鈴木　大介　1D
　　伊藤　純　1E
　　小野　光陽　1F
顧　問
　　五日市　悌
　　和田健一郎
　　外舘　克裕